

# 創立十周年記念学会記事

本会才七回大会は、創立十周年記念学会として、去る四月二十九日から五月一日までの三日間にわたって盛大に開催された。学会は従来の総会・研究発表会の他に公開講演会及び史料展示会をも開催し、特に公開講演会は、青森、八戸両市にも会場を移して、一般知識人・学生  
の渴望にこたえると共に、県内の地方史研究の発展に裨益するところ多かつた。学会のプログラムは次の通り

14月29日(祝)1

公開講演会 (共催 青森県教育委員会・  
東奥日報社)

13:30~16:00 於八戸市立図書館集會堂

豊田 武氏・坂本太郎氏

14月30日(土)1

総会

9:00~11:30 於弘前市之中央公民館才1集會堂

公開講演会 (共催 弘前市教育委員会)

13:30~16:30 於弘前市之中央公民館才1・2集會堂

豊田 武氏・小葉田 淳氏・坂本太郎氏

史料展示会 (共催 陸奥史談会)

10:00~16:00 於弘前市民会館才1会議室

懇親会

17:00~19:00 於青森県林檎商會会館ホール

15月1日(日)1

研究発表会 (共催 青森県文化財保護協会)

9:00~12:00 於弘前大学教養部才2講義室

公開講演会 (共催 東奥日報社  
青森県教育委員会)

13:30~16:00 於東奥日報社ホール

小葉田 淳氏・坂本太郎氏

## ◇◇◇ 公開講演会

公開講演会は、斯界の最高權威三氏をお迎えするといふ豪華な内容で、当地方空前の盛事といつても過言でない会である。たため会場とも予想以上の聴衆の参加があった。演題は左の通りである。

正史と正史教育 東大名譽教授 文博 坂本 太郎氏

江戸時代の貨幣 京大教授 文博 小葉田 淳氏

北条氏と東北地方 東北大教授 文博 豊田 武氏

坂本教授は弘前・青森・八戸三市で、巧みに時事問題を  
も取上げながら正史教育の本質にふれられ、小葉田・豊  
田両教授は、二会場を分担され、それぞれ格調高い研究  
の成果や、本県との関係において鎌倉北条氏の問題を発  
表されて、示唆するところ大であった。小葉田教授の講  
演要旨は本号に掲載したが、坂本・豊田両教授の講演要  
旨も次号に掲載される予定である。

### ◆ 研究発表会

青森県文化財保護協会の才三回地方史研究発表会をも  
兼ねた本会は、左の五題の発表があった。

- |                  |          |        |     |
|------------------|----------|--------|-----|
| 津軽のの刃工           | 県文化財保護協会 | 戸沢     | 武氏  |
| 「弘前藩外港」青森町の      |          |        |     |
| 海運に関する研究         | 野股中学校    | 小杉     | 八朗氏 |
| 近世下北地方の海運史料      | 大畑中学校    | 嶋海健太郎氏 |     |
| 自由民権論者           |          |        |     |
| 角範忠四郎について        | 名又井農高    | 稲葉     | 克夫氏 |
| 西間における外來思想受容の一考察 |          |        |     |

柏本農業高 今井日出夫氏

- 1 津軽為信書状
- 2 僧正天海書状
- 3 筑物大工の黒印状
- 4 久 祥 院 写 經

いづれも充実した研究成果の発表であり、参会者に感動  
を与え、質疑も活発に行われた。なお嶋海健太郎氏の発  
表は近く、下北史談会の「うそり」才三号に掲載される  
筈であり、稲葉克夫・今井日出夫両氏の研究は追って  
本誌に掲載する予定である。また、小杉八朗氏の研究は  
三十四ページに及ぶ同名のパンフレット（タイプ印刷）  
として刊行されているので参照されたい。

### ◆ 史料展示会

陸奥史談会との共催で開催されたが、今回初めて公  
開された史料もあり、特に好評であった。趣向が一目瞭  
りであったことが惜しまれる。

参考までに出品目録を掲げたが、詳細な解説のきの目  
録が若干残っているのが希望者は史料を添えて本会宛申  
込まれたい。

- |     |        |
|-----|--------|
| 1 函 | 八木橋武美氏 |
| 1 函 | 楠引 忠三氏 |
| 1 函 | 坂本 弘氏  |
| 1 巻 | 隣 松 寺  |



- 28 落札
- 29 発句合外決名所双六
- 30 神社微細調
- 31 金木屋日記
- 32 弘前城写真 明治5年
- 33 弘前城写真 明治10年頃
- 34 弘前明細絵図 明治26年
- 35 義士遺品説明書・赤穂義士遺墨絵葉書
- 36 徳川光圀書状
- 37 新井白石・室鳩巢・救世祖徠書状
- 38 杉田玄白手蹟
- 39 頼山陽手蹟
- 40 南藩拙室手蹟
- 41 齋海舟手蹟
- 42 榎本武揚手蹟

数点

八木橋武美氏

1枚

全

1冊

景勝院

1冊

八木橋武美氏

1枚

神 良治郎氏

3点

坂本 弘氏

1帖

全

2点

成田末五郎氏・八木橋武美氏

1幅

唐牛 敏世氏

1幅

全

1幅

羽賀与七郎氏

1幅

原 健吉氏

1幅

宮崎 道生氏

1幅

全 八木橋武美氏

## ◇ 総 会

総会は新人会員をも加えに約四〇名の出席があり、十周年記念事業を中心とした庶務・会計報告があり、会則の審議・役員改選が議題となつたが、羽賀与七郎議長可会のもとに和気藹々のうちに議事が進められた。会則の改正は与なく、役員は全員留任の上若干名増強すること

となつたがこの件は会長に取扱いを一任した。最後に宮崎会長より、十周年記念学会の成果を基礎に、更に発展を期する旨の挨拶があつたが、会員も徐々に増加して居り、会計面も安定したので、本会発展の条件はととのたわけであり、会員の精進が待たれる。

講師の三教授を囲んでの懇親会は、弘前大学長・人文  
学部長・弘前市長及び共催各団体の代表者の参加もえて  
盛況であった。講演会とは異なるつた雰囲気のもとで、講

師の学識にふれ、警咳に接する機会をえたことは、参加  
者にとつて大きなよるこびであった。記念撮影をして  
懇親会を終えたが、この夕の一带は、本会の歩みの上に  
持筆記念さるべき一瞬となろう。なお懇親会終了後、講  
師の先生には、弘前城趾に咲き誇る満開の桜を満喫して  
いただいたことを付け加えたい。

X X X X X

創立十周年記念事業の一つとして兼ねて作業を催めて  
来日本会編『青森県の歴史』は、記念学会当日刊行され  
た。内容は省略するが、中高校生の副読本、各社教団体の  
テキスト及び一般の教養書として編纂された本書は、

各方面に好評をえ、平易詳細で信頼出来る新しい青森県  
史としての声価をかかめている。予想外の反響をよび、  
発売以来県内主要書店で連続ベストセラーを続けている  
。本会として当初予定した部数を遙かに越えて版を重ね  
ているが、印刷技術上今後の増刷は望めないで、未購  
入の向きは早目に左記へお申込みいたしたきたく、また關  
係各方面に二推薦方を重ねてお願いしたい。

申込先 弘前市富田町五〇 (丁、二一七四七三)

申込先 弘前市富田町五〇 (丁、二一七四七三)

青森県地方史文献刊行会

なお定価二百円であるが、郵送の場合には一部七十円の  
送料がかかるので、少数数の場合は、弘前・今泉本店、  
青森・坂田本店、八戸・伊吉書院で購入下さい。

X X X X X

以上の如くこのたびの記念学会は、単に本会の創立十  
周年を記念するにとどまらず、県下の教育界、郷土研究  
クループ及び地方史研究家に大きな刺激となり、地域社  
会に寄与するという本会活動の一分野を積極的にきりひ  
らいたことに大きな意義があろう。

なお、坂本・小葉田両教授には、青森県立図書館・弘  
前市立図書館及び錦ヶ沢民話会をも訪問され、史料を調  
査されると共に種々助言を賜わったこと、更に小葉田教  
授には、その専門とする鉱山史の研究のため、尾木鉱業  
所をも調査されたことを付言しておきたい。

最後に、本学会を共催された弘前大学人文学部・青森  
県教育委員会・弘前市教育委員会・青森県文化財保護協  
会・陸奥史談会・東奥日報社、後援された八戸市教育委  
員会・八戸市校長協議会及び、種々御協力賜わった展示  
史料出品者をはじめとする各位に、改めて感謝の意を表  
します。

(荒井 清明)